中核病院における離島支援看護活動モデルの開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-01-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 知念, 久美子 メールアドレス: 所属:
URL	https://opcnr.repo.nii.ac.jp/records/390

氏　　名	知念　久美子
学位の種類	博士(看護学)
学位記番号	沖看大博第 12 号
学位授与年月日	平成 25 年 2 月 27 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	中核病院における看護活動モデルの開発
論文審査委員	主査　　教授　神里　みどり
	副査　　教授　前田　和子
	副査　　教授　嘉手苅　英子
	副査　　教授　大湾　明美
	副査　　名誉教授　野口　美和子

論文内容の要旨

1. 目的

マンパワーの乏しい小離島では、中核病院からの医療支援なしでは、住民に必要最低限の医療が提供できない。そのため、小離島に対する中核病院からの支援体制は必要不可欠である。特に、離島住民に医療を提供できる唯一の場所である診療所での看護活動が展開できるよう、中核病院の看護部からの支援が重要である。しかし、中核病院から離島への支援体制に関するモデルは見当たらない。

本研究の目的は、離島支援看護活動の持続的な改善のために中核病院における離島支援看護活動モデルを作成することである。

2. 方法

本研究は、離島支援を看護の立場から検討し、改善・開発を図ることを目的に中核病院看護部に設けられた離島支援開発委員会の全活動記録（26 ヶ月 28 回、約月 1 回）を分析した。筆者は委員会メンバーとして委員会活動に参加した。全活動記録の意味内容を損なわないようにデータを作成した。データを「離島支援看護活動は何か」「離島支援看護活動の持続的改善に専門に取り組む組織の発展要素は何か」「離島支援看護活動のマネージメントの観点は何か」の 3 つの視点で分析した。分析項目の主旨に従って類似するデータをまとめ、討議内容とした。さらに、討議内容を離島の特質ならびに離島における支援の視点から、離島支援看護活動や専門組織の発展内容としてまとめた。まとめた内容を離島の特質に起因した中核病院が行う離島支援の一環としての「離島支援看護活動」、それを改善する

「専門組織の発展要素」を確定し、その関係性を図で示した。マネージメントの観点に関しては、各離島支援看護活動の内容を分析項目に従って分析し、「マネージメントの観点」を確定した。さらに、確定した「マネージメントの観点」から離島支援看護活動の使命を導き出し、各離島支援看護活動との関係性を図に示した。最終的に 3 つの分析視点の関係図を検討し、統合することで、中核病院における離島支援看護活動モデル図を作成した。

3. 結果

1) 離島支援看護活動として、「継続看護活動とその連携」「地域に開かれたセルフケアの指導」「離島の生活文化に応じた看護活動」「離島住民の力と情報の活用」など 16 の離島支援看護活動があった。離島住民を対象とした離島支援看護活動を中心に、16 の離島支援看護活動の関係性を検討し図で示すと、重層的関係の同心円で表された。

2) 離島支援看護活動の持続的改善に専門に取り組む組織の発展要素には、「看護管理者・知識保有者の集結による離島支援看護活動の充実強化への期待」「相互信頼と活動意欲の向上」など 5 つがあった。離島支援看護活動に関わる看護職者は少人数であるため、問題があっても解決できることが限られている。そのため、離島支援に関心のある看護管理者や知識保有者が集まり、離島支援看護活動について積極的に思考・行動する専門組織が必要であった。

3) 16 の離島支援看護活動に対して 2 つの使命と 19 のマネージメントの観点があった。2 つの使命とは、「離島住民の生活の質の向上」と「看護職者・組織の離島支援看護活動能力の成長」であった。「離島住民の生活の質の向上」という使命には 6 つのマネージメントの観点があった。それは、小離島で暮らす住民の安心を保つために、離島医療の安全の確保だけでなく離島住民の自立性の向上が重要であった。「看護職者・組織の離島支援看護活動能力の成長」という使命には 13 のマネージメントの観点があった。それは、離島支援看護活動の能力を小離島に合わせたり、中核病院のレベルに医療の安全を上げるなど離島支援看護活動の能力の向上や拡大が重要であった。

4) 中核病院における離島支援看護活動モデルの全体像を同心円で示し、上半円に離島支援看護活動、下半円に離島支援看護活動のマネージメントの観点を配置した。そうすることで、小離島とそれを支援する中核病院における離島支援看護活動ならびに離島支援看護活動とそのマネージメントの観点をそれぞれのユニットとして捉えた図で示すことができた。

4. 結論

1) 中核病院における離島支援看護活動モデルは、小離島とそれを支援する中核病院における離島支援看護活動、ならびに離島支援看護活動とそのマネージメントの観点を

ユニットとして捉えたことで、離島支援看護活動の持続的改善に有用であると考える。

2)　中核病院における離島支援看護活動モデルは、離島支援看護活動とその活動の持続的改善に専門に取り組む組織の発展、ならびにマネージメントの観点を包括することで、離島支援看護活動の関係者が相互に影響し合いながら自己成長し、さらに組織としての活動の強化や離島支援看護職者の育成にも活かすことができると考える。

3)　離島支援看護活動モデルは、離島支援の内容に応じて部分的な活用や山間部のへき地診療所を管轄している中核病院においてもモデルの活用が可能であると考えられ、今後このモデルを検証していくことが課題である。

論文審査結果の要旨

本研究は、医療資源の限られた小離島で、唯一離島住民に医療を提供している診療所の看護活動とこれまで明確にされてこなかった中核病院からの組織としての支援体制を明確にすることで、小離島の診療所と中核病院が一体となった離島支援看護活動の全体像を提示したモデルの開発を試みた研究である。

この研究の独創性として下記のことがあげられる。

1. 中核病院に設置された離島支援開発委員会の実際の活動に申請者が委員の一員として関わり、約2年2カ月にわたる28回分の全活動記録の討議内容を分析し、実際の離島支援活動とその成果、さらに今後の必要な支援課題を抽出し、離島の特質を反映させた実践的な離島支援看護活動を導き出していること
2. 導き出された16の離島支援看護活動は、小離島と中核病院を一つのユニットと捉えることで、それぞれの看護活動が離島住民の全てに医療が安全に提供され、連携協働しながら有機的なつながりをもって構成されていること
3. 小離島という海を隔てた遠隔地での可視化されにくい離島支援看護活動を持続的かつ改善するために、中核病院の看護部の下部組織として離島支援開発委員会という専門組織の設置・運営の方法を明文化し支援活動として取り入れ、その組織の発展要素を導き出したこと
4. 小離島と中核病院を一つの大きな組織のユニットとして捉えた離島支援看護活動を、マネジメントしていくために、必要な観点を導き出し、離島住民の生活の質の向上とそ

れに関与する看護職者の能力や組織の離島支援看護活動が向上して拡大していくといった相互に成長しあいながら発展的な活動になっていること

5. これらの離島支援看護活動とそれを発展させる組織とそのマネジメントの観点をモデルで示すことで、小離島のみでなくその他の離島・へき地での応用可能性が期待できること

以上の研究成果は、島しょ看護学の発展に寄与できる内容である。

審査の結果、以下の点に関して修正・加筆することが指摘された。

1. 離島支援看護活動のモデル図に組織の発展要素が適切に組み込まれていないこと
2. 本文でのモデル図の説明が不十分であること
3. 16の離島支援看護活動が明確に図に示されていないこと
4. 本文における図表の説明に整合性がないこと
5. 要旨、目次の図表・付録の完成度を目指すこと

以上の指摘に関して、研究指導教員の指導のもとで加筆修正することを条件に、博士論文に値するものとした。審査会終了後、速やかに修正版の論文提出がなされ、上記指摘に関する論文の追加・修正がなされ合格と判定した。